

『都市の経済学』

2015 後期

「はじめに」

都市経済学の目的と意義、特徴

* 都市経済学の目的

* 都市経済学とは：都市を研究対象とする経済学

* 経済学とは：

希少な資源が経済活動の間でどのように配分され、その結果生じる生産物が経済主体の間でどのように分配されるかを研究する学問

* 希少な資源＝生産要素(労働、資本、土地など)

* 配分＝資源配分(何をどれだけどのように生産し、何をどれだけ消費するか)

* 分配＝所得分配(生み出された対価が消費者間でどのように分けられるか)

* 都市経済学とは

都市において、どのような資源配分と所得分配が実現されるかを明らかにする学問分野である

* 都市経済学の目的

* 市場メカニズム(=価格メカニズム)

- * 需要曲線 $D(p)$ 、供給曲線 $S(p)$ 、均衡 E 、均衡価格 p^* 、均衡取引量 q^*
- * 超過供給→価格が低下→均衡へ
- * 超過需要→価格が上昇→均衡へ

* 市場メカニズム(=価格メカニズム)とは

価格を媒介として、自由に財・サービスの売買が行われ、その結果資源配分が達成されるメカニズムのこと

* 都市経済学の意義

* 都市経済学は経済学の一分野

→経済学の意義について考えることと同じ

* 経済学の意義とは

→資源配分、所得分配を明らかにすること

→明らかになった事実から何が得られるのか？

1. 経済現象や経済問題の説明

例) 都心から郊外に行くほど、地価や地代がなぜ減少するのか...

2. 経済問題の解決策の提示とその有効性の検討

例) 高層マンションの建築による負の外部性への対応はどうすべきか...

3. 予測

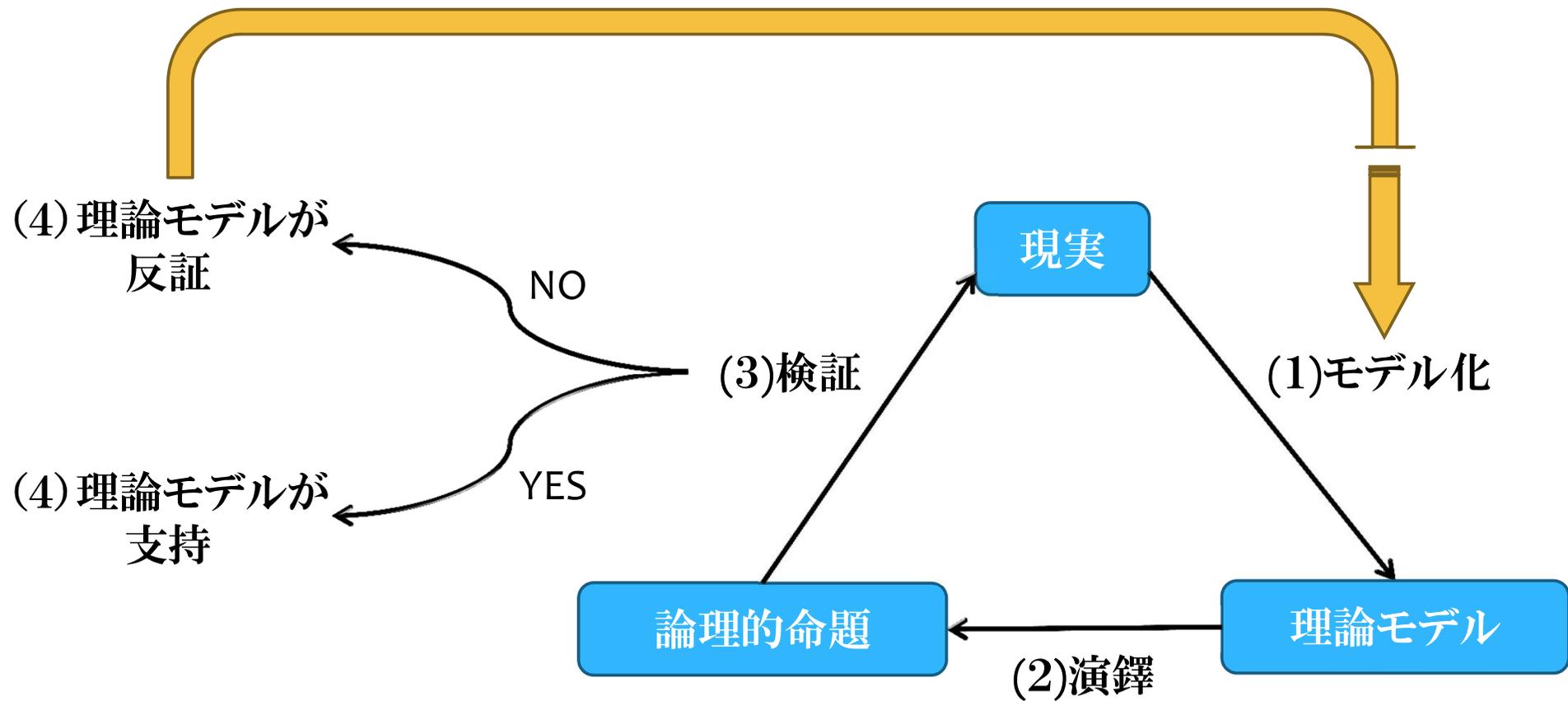
例) 人口の減少は、都市の密度や大きさをどのように変化させるのか...

都市経済学の方法

都市経済学で用いられる方法＝経済学で用いられる方法
科学一般と同様「科学的方法(scientific method)」

1. 理論モデルを構築する(モデル化)
複雑な現実経済を抽象化、単純化して、ありえそうな仮説の体系にすること
例) 消費者が予算制約のもとで効用関数を最大化する
2. 理論モデルから論理的命題を導く(演繹)
真偽の判断の対象となる事実(＝命題)を論理的に導出すること
例) 市場の需要曲線は右下がりになる(ある条件のもとでは)
3. 論理的命題を現実のデータで検証する(検証)
命題が事実であるか、データと統計学を応用して検証すること
4. 理論モデルの支持または反証
検証結果
命題が現実と不一致→理論モデルが反証→新たな理論モデルの作成
命題が現実と一致→理論モデルが一応支持

科学的方法



都市経済学と授業の関係

* 都市経済学が扱うテーマ

- * 都市と都市化の概念
- * 都市集積の理論
- * 都市規模と都市システム
- * 住宅の立地
- * 都市の空間構造
- * 産業の立地
- * 地価土地政策
- * 住宅市場の理論と政策
- * 都市と地域の交通
- * 都市の環境問題
- * 都市の犯罪

* 授業で扱う範囲と目的

- * 都市経済学の中でも住宅に関する分野を学習
- * 都市経済学(=科学的方法)を用いて、住宅問題を分析
- * 住宅問題を都市の発生と成長という観点から分析し、従来とは異なる視点で住宅問題を捉える